

過去の委員意見

① 前回(11/27「プラン改定についてのご意見をお聞きする場」)の意見

	委員	意見
1	岩田会長	プランの書き方に幅をもたせ、今度5年間で新たな事業を包含できるような書き方を工夫してほしい。
2	松田委員	パブコメ件数が全国と比較しても多かったことはよいことだと思う。
3	岩田会長	パブコメ件数が多いのは、若い人をターゲットに事業を行っている結果でもある。
4	太田委員	専業主婦になりたい若年層が多いのは、母親の影響が大きいと思うので、母親の意識改革が大切である。
5	岩田会長	専業主婦の就業が、将来的に世の中を支える大きな戦力になるので、プランの文章を今より後退させないでほしい。また、若年層へのキャリア教育にあたっては、専業主婦のリスクを知らせる事が大切である。
6	太田委員	専業主婦は経済的に脆弱であるので、就業の継続や就業を促進すべきである。
7	吉田委員	出産後の就労率の低さはいろいろなケースがあり、やむを得ないことが多いので、出産後の就労率の低さだけを取り上げるのはどうか。実際には働きたいのに働く環境が整っていないため働けないという女性は多い。
8	岩田会長	働きたい女性が多いのは資料からも分かるが、現実的な問題として出産、子育て期に就業率が低くなっているという数字をプランによって認識することは、悪いことではない。
9	芹沢委員	出産、子育て期の女性の労働力の低さを改善するには、全庁的にこの数字の低さを認識することが重要である。
10	岩田会長	3歳児神話は科学的ではないので、Q&Aなどを使って上手に否定すべきである。
11	池田委員	神奈川版父子手帳は、初の試みで評価はするが、情報量としては少ない。
12	池田委員	男性向けセミナーは、参加したことがない人にウェブやセミナーで働きかけて、参加を促すとよい。
13	太田委員	「24時間SOSダイヤル」の内容が分かるとよい。
14	吉田委員	男女共同参画計画の策定状況は、市町村によって人員が少ないなど状況も様々であるので、市町村の状況をよく見てほしい。また、「見える化」に力を入れて欲しい。
15	岩田会長	「見える化」で、市町村の施策の進捗状況なども公表し、いい意味で競うことができるようになると良い。
16	岩田会長	ページの構成で余白があるので、コラムや写真、Q&Aを入れてはどうか。
17	岩田会長	現在取り組んでいる事を拡大していくことが、また次の新しい計画に繋がるので、来年から始まる5年でプランに基づき施策を推進してほしい。
18	松田委員	4月から組織再編に伴い、「県民局」という表記の修正が必要だと思うので、注意するとよい。
19	吉田委員	女性が多い職場への男性の進出についても、検討してほしい。
20	松田委員	女性が多い職場への男性の進出は、意図性を持った政策があると、県内でも広がっていくと思うので、検討してほしい。
21	太田委員	女性が多い職場への男性の進出、例えば介護の現場ではセクハラの報告などもあるので、その点からも同性介護は大切である。
22	岩田会長	女性が覆い職場への男性の進出も大切なことなので、今後の参考にしてほしい。
23	太田委員	リケジョに関して、理工系に限らず他の女性が少ない業界にも目を向けてほしい。
24	岩田会長	リケジョだけに特化した方がいいか、枠を広げたほうがいいかは、今後検討してほしい。
25	芹沢委員	子供の貧困対策について、組織再編の趣旨が活かせる局になってほしい。
26	岩田会長	局が変わっても、男女共同参画の問題は全ての局に当てはまることであるので、人権男女共同参画課が先頭に立って推進していく役割を担ってほしい。もしも課から部になれば、男女共同参画行政が強化されることになる。
27	吉田委員	どの局に入っても、連携してほしい。

② 前々回(8/28「第4回審議会」)までの意見

番	委員	意見
1	吉田委員	次期プランが企業にとって重要だということが企業自身に伝わるような記述にするとよい。
2	神尾委員	「計画の性格」について、女性活躍推進法の推進計画を位置付ける部分が正確でないので、検討してほしい。
3	戸山委員	指標など、単位を統一した方がよい。(〇分や〇時間など)
4	神尾委員	「神奈川の人口動向」について、「2018年をピークにその後減少する」という記述に合うグラフにした方がよい。
5	神尾委員	「女性の就業継続」について、非正規が正規を上回るのは30歳代後半なので、グラフに合う記述にした方がよい。
6	松田委員	「働く女性の状況」グラフは、能力や成果があってもキャリアアップに繋がる仕事を任せて貰えないという5位回答まで入れたほうがよい。
7	神尾委員	「配偶者等からの暴力」について、支援だけでなく、そもそも暴力がいけないという啓発を先にした方がよい。
8	今井委員	退行(勤)時間を早めることがワーク・ライフ・バランスの実現に繋がる。長時間労働削減以外にも工夫をするとよい。
9	岩田会長	「雇用の場における男女共同参画」は「雇用の場」に限定しないほうがよい。
10	岩田会長	「育児・介護などの基盤整備を行なう」は、「社会的基盤整備」にした方がよい。
11	戸山委員	「基本理念の説明」と「施策の体系図」について、「働き方改革の見直し」を入れるか統一した方がよい。
12	(合意)	「審議会の女性委員の割合」の指標は、「32年に40%、その後は40%を超えること」でよい。
13	(合意)	「民間事業主の女性管理職比率」の指標は、「34年に13%」でよい。
14	(合意)	「6歳未満の子どもを持つ夫の育児・家事関連時間」の指標は、「33年に105分/日、33年に見直し」でよい。
15	(合意)	「25歳から44歳の女性の就業率」の指標は、「34年に72%」でよい。
16	神尾委員、 諸橋委員	「朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数」という指標は、ワーク・ライフ・バランスに直接繋がらないので、ほかに替わるものがあれば落としてもよい。
17	神尾委員	「介護離職者数」の指標を重点目標2に参考数値として入れるとよい。
18	神尾委員	「一般労働者と短時間労働者の時間給格差」の指標は、女性は正規・非正規で時間給差が少ないから非正規でもよいという誤解を招きかねないので、削除した方がよい。
19	諸橋委員	企業の取組みとして、東京で働く県民が多いので、東京の企業への働きかけをするとよい。
20	岩田会長	「若い女性の未病」とは何か分かりにくいので、説明を入れてほしい。
21		「20代女性の痩せ割合」は、深刻な問題なので、目標名を工夫した上で、是非入れるとよい。
22	(合意)	「夫婦間における次のような行為を暴力と認識する人の割合」の指標は、「30年に100%、DVプラン改定に合わせて30年に見直し」でよい。
23	岩田会長	待機児童対策については、「待機児童をゼロのする」と明記してほしい。
24	(合意)	「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方について「そう思わない」人の割合の指標は、「34年に「28年の数値」を超えること」でよい。
25	岩田会長	進行管理に、審議会の役割(プランの評価)を明記してほしい。
26	(合意)	「女性活躍推進法に基づく推進計画の策定率(市町村)」の指標は、「34年に市100%、町村70%」でよい。
27	諸橋委員	「女性活躍推進法に基づく推進計画の策定率(市町村)」の指標は、市町村数を入れたほうがよい。
28	諸橋委員	男女共同参画条例の策定率を指標にするとよい。
29	吉田委員	パブコメについて、市町村からの意見をもっと積極的にしてほしい。
30	松田委員	和暦のあとに、括弧書きで西暦を入れた方がよい。
31	松田委員	グラフについて、県民ニーズ調査が出典の場合、男女別データを入れた方がよい(内訳で男性〇%、女性〇%)。
32	松田委員	グラフについて、県民ニーズ調査が出典の場合、複数回答の場合は、その旨を記載した方がよい。
33	神尾委員	「改定の趣旨」は「改定の考え方」と繋がるような記述やグラフにした方がよい。
34	戸山委員	神奈川の流入と流出、収入と独身、世帯の構成など調査し、裏づけを持った記載にしてほしい。

番	委員	意見
35	松田委員	内閣府の白書等を用いる場合は、出典や注意書き等を入れた方がよい。
36	神尾部会長	次期プランから新たに取組む内容は、強調した方がよい。
37	松田委員	「神奈川県」「神奈川」などばらつきがあるが、「神奈川」の方がよい。
38	神尾部会長	目標・参考数値は、「県」「民間」という表記は分かりにくいので、なくてもよい。
39	松田委員	「管理職に占める女性の割合」(全国40位)には、あえて東京の順位(全国10位)を入れなくてよい。
40	神尾部会長	「神奈川における男女共同参画をめぐる状況」に、「男女共に結婚を躊躇する状況が伺われ」とあるが、根拠が不明。標記としてそこまで踏み込めるのか、再度検討した方がよい。
41	戸山委員	「男性中心型労働慣行」は、「限定型」の方がよい。
42	神尾部会長	グラフ「様々な分野の政策・方針決定過程における女性の参画」に、防災委員の割合を入れると、7ページ「改定の考え方」(1)重点目標1の防災関係の記載に繋がるので、入れるとよい。
43	神尾部会長	グラフ「職業を持つことについての意識調査」の結果(全国47位)と、グラフ「女性無業者の就職希望状況(30歳代以降の就業希望が全国平均より高い)は、両極端のデータで見せ方が難しいが、検討してほしい。
44	松田委員	都市部では育児と介護が40代女性に大きな負担となっている。介護のデータはないかもしれないが、記述として介護・ダブルケアについて入れた方がよい。
45	神尾部会長	神奈川県における介護離職の実態のデータがわかるとよい。
46	松田委員	グラフ「働く女性の実態」に、回答の4位だった「能力や成果があっても昇進や昇給が遅い、または望めない」を入れた方がよい。
47	松田委員	グラフ「男性の家事育児・地域活動の参画」は、男性は昇進の悪影響を考慮した結果「上司・同僚の理解が必要」と回答している可能性があるため、それを表すような回答結果も入れるとよい。
48	戸山委員	グラフ「職業を持つことについての意識調査」は、理由が分ると県の実態が分かるので、入れるとよい。
49	神尾部会長	グラフ「職業を持つことについての意識調査」に関連して、日本の場合女性が就業継続を選択することに困難が伴うため、施策が必要。
50	神尾部会長	グラフ「職業を持つことについての意識調査」は、具体的な理由が分かるのであれば記載するとよいが、意識について明確な理由をあげるの難しいので、事実だけの記載にした方がよい。
51	松田委員	グラフ「男女の平等感」では「男性優遇」、16ページは「平等」を用いているが、同じ県民ニーズ調査の結果なので、揃えた方がよい。
52	芹沢委員	男女共同参画の入口に立てない女性が経済的な困難を抱えていることが多いことについて、プランで触れてほしい。
53	松田委員	暴力の5項目を指標においてるのは神奈川県が最多。このまま5項目で取り組んでほしい。
54	松田委員	自治会長・町内会長の女性比率は、国と同じ10%をめざしてほしい。
55	吉田委員	自治会・町内会の役員に女性を登用して女性比率を上げてほしい。
56	松田委員	「民間事業所の女性管理職(課長相当職以上)の割合」の指標は、案1の13%でも高い。まち・ひと・しごと総合戦略の目標値である11.5%でもよい。
57	戸山委員	現実的には案1の13%がよい。ただし、全体との整合性を保ち、社会の追い風や民間と行政の違いを理解したうえでどこまでチャレンジできるかを反映してほしい。
58	神尾部会長(まとめ)	女活法の追い風があり、あまり低い目標値ではなく、大企業の数値でもあることから、案の1の13%を部会意見とする。
59	岩田委員	政治分野について最初から外さずに議論してほしい。
60	白河委員	審議会の割合を上げるため、男女プランに強制力が必要。
61	岩田委員	審議会の割合を上げるため、知事枠(知事のトップダウンで女性委員を入れる枠)を設けるとよい。
62	吉田委員	審議会は、大学教授から委員を選任する際、非常勤から選任することもできる。
63	戸山委員	「県の審議会等における女性委員の割合」の指標は、国の目標値にある程度合わせる事は必要だが、あまり設定を高くしすぎない方がいい。現段階では40%が妥当な目標。審議会は適切な人選が本来目的なので、各審議会に
64	松田委員	案の1の40%がよい。案の2の36%は少し低い。
65	神尾部会長(まとめ)	将来的には50%だが、まずは他の都道府県に合わせて40%程で取組むのがよい。女性の活躍が加速している今、あまり低くないほうがよい。40%を部会意見とする。
66	神尾委員	県職員女性管理職は、県特定事業主行動計画の目標値(平成32年度に20%)を女性管理職の指標に入れてほしい。
67	神尾委員	県職員女性管理職は、教員や警察官の目標値を女性管理職の指標に入れてほしい。
68	岩田委員	県職員女性管理職は、高い数値目標値にしてほしい。
69	戸山委員	県職員女性管理職は、セイフティネットを設けた上で、トップダウンで組織を変えてほしい。
70	吉田委員	県職員女性管理職は、育児や介護のとき管理職から外れる制度があるとよい。
71	吉田委員	県職員女性管理職は、「県女性職員の職員拡大と管理職等の登用推進」のために、根拠となる事業と職域拡大の指標をいれてほしい。

番	委員	意見
72	神尾委員	女性の参画が少ない分野の事業は、理工系女子以外にないのか。
73	松田委員	「農山漁村女性の日」の周知度を指標に入れてほしい。
74	戸山委員	女性の新規就農促進に関連し、キャリア教育の一環として、高校生・大学生向けのフィールドワークやインターンシップ等の産学連携事業があるとよい。
75	松田委員	災害時の女性の避難所設置のため、県内女子大、女子高と協定を結ぶとよい。
76	吉田委員	県の防災委員会の女性比率を上げてほしい。
77	松田委員	平日昼に家庭にいるのは女性が多いので、消防団で活躍してもらおうとよい。
78	松田委員	県立音楽堂改修にあたり、女性トイレや控室の整備など女性に配慮した施設にしてほしい。
79	戸山委員	かなテラスの男性セミナーは、話を聞くだけでなく受講者が互いに語り合い、話し合う講座にするなど、企画を工夫してほしい。
80	池田委員	男性の家事育児関連時間は、「時間」だけでなく「何をやるか」の内容が大切。
81	池田委員	男性の地域活動への参画は、きっかけを大切にしないと男性が入りにくいので、工夫が必要。
82	松田委員	「6歳未満の子どもを持つ夫の育児・家事関連時間」の指標は、職住接近を考えると、案2の150分より案1の105分／日がよい。
83	神尾部会長	案1の105分／日がよい。
84	神尾部会長 (まとめ)	案1の105分／日を、部会意見とする。
85	岩田委員	子育てのため退職した女性の正規雇用での再就職のため、ハローワークと連携し取り組んでほしい。
86	白河委員	M字カーブ解消のため、結婚・出産のため退職した女性の再就職の際重点的に時給の高い仕事に戻れるよう企業に働きかけしてほしい。
87	吉田委員	M字カーブの指標は、正規と非正規とで分けて出してほしい。
88	岩田委員	M字カーブの指標は、25～44歳では広いので、30代に絞るなどしてほしい。
89	戸山委員	結婚退職後の女性の再就職のための施策に取り組んでほしい。
90	戸山委員	女性が離職後もトレーニングの機会があり、いつでも就労可能な雇用環境づくりに取り組んでほしい。
91	戸山委員	仕事と生活の両立の推進事業は、話を聞くだけでなくワーキングマザーの語り場なども実施してほしい。
92	松田委員	女性起業家の割合が県は常に30%を越えているので、プランで触れて欲しい。
93	松田委員	旧姓利用やマタニティマーク周知度、応援団へのアイネット寄付について、プランで触れて欲しい。
94	松田委員	「25～44歳の女性の就業率」の指標は、案1の74%は低く、案3の77%は高い。70%程度がよい。
95	戸山委員	目標を低めにする必要はないが現実的なところも踏まえてほしい。
96	神尾部会長 (まとめ)	意見を踏まえて、0.7%/年増で計算した案を作してほしい。※72%になる(事務局注釈)。
97	白河委員	条例届出結果は企業名を公表してほしい。
98	戸山委員	企業訪問の際、女性活躍の取組みが遅れている企業へ指導するとともに、訪問による効果の調査分析をしてほしい。
99	戸山委員	高校生等への労働教育は、就職支援ではなく、労働知識の教育に重点化してほしい。
100	戸山委員	労働者側への啓発に取り組んでほしい。
101	岩田委員	非正規雇用、同一労働同一賃金や長時間労働の規制などは、神奈川労働局と連携し取り組んでほしい。
102	神尾委員	同一労働同一賃金を企業に働きかけてほしい。
103	松田委員	障がいのある人の雇用のため、在宅ワークを推進してほしい。
104	吉田委員	LGBTや障害のある人など、多様な人が働くことができる社会について、プランで触れてほしい。
105	松田委員	「働き方改革推進本部・調整部会」の取組みや「家庭の日」について、県がPRしてほしい。
106	松田委員	テレワーク、サテライトオフィスを推進してほしい。
107	戸山委員	会社支給PCの社外持ち出し禁止など、テレワーク普及を阻害する要因を解消するための取組みを進めてほしい。
108	肥塚委員	企業の風土改革のため、男性管理職の意識改革について県が啓発してほしい。

番	委員	意見
109	戸山委員	長時間労働削減だけではなく、自分の意思でもっと働きたい人のための取組みを進めてほしい。
110	吉田委員	長時間通勤を解消するため、県内で働くことが出来る事業の創出に取り組んでほしい。
111	戸山委員	「週労働時間60時間以上の雇用者の割合」の指標が国と乖離しているため、理由を調査分析してほしい。
112	神尾委員	「週労働時間60時間以上の雇用者の割合」の指標は、現在は週60時間以上の残業は減っているので、36協定を踏まえて「月45時間以上所定労働時間」に係る指標にしてほしい。
113	松田委員	オリンピックに合わせてスポーツを巻き込んだワーク・ライフ・バランスに取り組んでほしい。
114	松田委員	県の経済効果が上がるようなプレミアムフライデーの周知の取組みを進めてほしい。
115	戸山委員	24時間営業を止めるなど、過剰サービスを止めた企業をワーク・ライフ・バランス推進企業として表彰する等するとよい。
116	松田委員	県は朝食欠食率が男女とも高く、改善のための取組みが必要。指標にも入れてほしい。
117	松田委員	いきいきと家事や地域活動をしているロールモデルを事例紹介してほしい。
118	松田委員	参考数値「県職員の部分休業、育児休業及び育児休暇の取得状況」に注釈を入れた方がよい。
119	松田委員	「夫婦における次の行為を暴力と認識する人の割合」の指標は男女別に統計を取ってほしい。
120	松田委員	「配偶者等暴力の啓発」の指標は、目標値をもっと高く設定してほしい。
121	松田委員	「かながわ犯罪被害者サポートステーションの周知度」や「かながわ 性犯罪性暴力ホットラインの周知度」を指標に入れてほしい。
122	松田委員	JKビジネス強化月間の取り組みは、毎年4月に継続実施してほしい。
123	松田委員	JKビジネスについての啓発は、中学生から啓発してほしい。
124	松田委員	ストーカー加害者へのカウンセリング指定医は、各市町村に最低1名指定してほしい。
125	松田委員	参考数値に「神奈川の犯罪被害者サポートステーションの周知度」を入れるとよい。昨年度の県民ニーズで非常に数値が低かったため。
126	松田委員	参考数値に「かなライン」の周知を入れるとよい。
127	神尾委員	ひとり親家庭の貧困率に関する指標を入れてほしい。
128	松田委員	男性のひとり親に関する指標を入れてほしい。
129	松田委員	「ひとり親家庭夜間休日電話相談の実施」と「こどもSOSダイヤル」は子どもが利用できるように無料化し、双方の連携体制を取ってほしい。
130	白河委員	子どもの貧困やシングルマザー等に向けた男女共同参画の施策が必要。
131	白河委員	40代以降の無職女性は将来貧困に陥る危険が高いため、取組みが必要。
132	岩田委員	シングルマザーへの取組みを進めてほしい。
133	諸橋委員	外国人女性や子どもたちとの共生に向けた取組みを進めてほしい。特に非常時に備えたセーフティネットやネットワークの構築に取り組んでほしい。
134	吉田委員	外国人女性の支援に取り組んでほしい。
135	白河委員	LG BTへの取組みを進めてほしい。
136	松田委員	同性パートナーの結婚祝金・弔慰金制度を県庁でも実施してほしい。
137	神尾委員	女性の健康に関連してリプロダクティブ・ヘルス/ライツの周知度についての指標を入れてほしい。
138	吉田委員	「自殺者の減少」の指標は、目標値をゼロにしてほしい。
139	松田委員	クオータの周知度を指標に入れてほしい。
140	松田委員	かなテラスの調査研究で、クオータについて周知してほしい。
141	松田委員	「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」という考え方に対する意識調査(全年齢、若年層)は、案2「『そう思わない』人が増加すること」がよい。強い口調より「そうは思わない」人を増やす流れを作してほしい。
142	戸山委員	案1「『そう思う』人が増加すること」がよい。データとしてわかりやすい。
143	神尾部会長	案2がよい。「そう思わない」人が増えれば「そう思う」人は減る。
144	吉田委員	かなテラス調査研究は、情報発信する相手を分析したうえで実施してほしい。
145	松田委員	一般向けの男女共同参画啓発を進めてほしい。

番	委員	意見
146	松田委員	女子差別撤廃条約という用語の周知度を指標に入れてほしい。
147	神尾委員	社会通念・慣習・しきたりなどでの平等を向上させるための取組みを進めてほしい。
148	戸山委員	男女の平等感の格差による影響度(給与面、仕事面、上司との関係等における差など)を指標に入れてほしい。
149	白河委員	大学キャリアセンターと連携しリカレント教育に取り組んでほしい。
150	戸山委員	「啓発資料配布校や出前講座実施校における進路決定率」など、ライフキャリア教育の指標を入れてほしい。
151	神尾委員	人権意識を高めるための意識啓発を充実させてほしい。
152	吉田委員	若年層に対して選挙権についての啓発をしてほしい。
153	松田委員	教頭以上の女性割合は、小・中で分けて目標数値を決めた方がよい。
154	松田委員	教員向け研修で、クオータの研修を実施してほしい。
155	松田委員	託児室付事業を増加させてほしい。
156	岩田委員	待機児童数は目標年度を定めてゼロにするという目標を入れてほしい。
157	吉田委員	保育所と介護施設の一体化を検討してほしい。
158	松田委員	家事代行支援の外国人女性数を指標に入れてほしい。
159	松田委員	外国人家事支援事業に関連して、来日した外国人女性にサポートしてほしい。
160	松田委員	県の各講座で、女性参加者には受講料割引等のポジティブ・アクションを検討してほしい。
161	神尾委員	介護離職者数に関する指標を入れて欲しい。
162	松田委員	ダブルケアという用語を周知してほしい。
163	神尾委員	介護制度についての企業への周知啓発を進めてほしい。
164	吉田委員	「県職員の部分休業、育児休業及び育児休暇や介護休暇について、男性職員への取組みを進めてほしい。
165	戸山委員	「県職員の部分休業、育児休業及び育児休暇の取得状況」は、人数でなく取得率100%を指標にしてほしい。
166	松田委員	「介護休業利用事業所割合」の指標は、どちらかを選ぶのであれば、事業所観点で見ると案1がよい。
167	戸山委員	現在取れる統計はこれだけなら、それを目標値に反映した方がよい。現段階で案1を仮として目標設定自体を早急に検討して見極める方がよい。目標値にしないという判断もありえる。
168	神尾部会長 (まとめ)	若い人の介護休業取得は低いなど、事業所や職場によるばらつきが出る現状で目標設定自体が適しているのか検討してもらいたい。
169	松田委員	市町村交流職員による町村支援を進めてほしい。
170	吉田委員	県と市町村が協働したモデル事業を実施してほしい。
171	松田委員	大学や他都道府県との連携に取り組んでほしい。
172	松田委員	市町村の優れた取組みをプランに入れてほしい。
173	松田委員	県の公表データは男女別のジェンダー統計にするため、指針を策定してほしい。
174	神尾委員	男女混合名簿などは基本的な統計なので、県立高校以外も100%になるよう取組みを推進してほしい。
175	吉田委員	ジェンダー統計の必要性を市町村に啓発してほしい。
176	松田委員	高校対象の男女共同参画に関するジェンダー統計を数年に一度は実施してほしい。
177	松田委員	男女共同参画計画の策定率(市町村 100%)を指標に入れてほしい。